

民主島根

2024年
11.17
第1459号

発行所 松江市袖師町3-6 TEL 0852-24-2444
日本共産党島根県委員会 FAX 0852-24-6369

県医労連 人員足りず、現場は疲弊している

安全・安心の医療、介護実現を県へ要請

党県議団、村穂、亀谷の両氏が同席



県へ要請する森山委員長ら組合役員（松江市）

島根県医療労働組合連合会（森山篤士委員長）は7日、県に対し、安全・安心の医療、介護の実現に向け、看護師・介護職員の配置基準を抜本的に改善し、大幅増員と賃上げを支援するよう要請しました。全日赤松江、松江生協労組、恵和会労組など組合役員12人が参加し、日本共産党の尾村利成、大國陽介の両県議、村穂江利子党県副委員長、亀谷優子党県常任委員が同席しました。

参加者は「看護師一人が十数人の入院患者さんのシャワー浴をしている。休憩も取らずに働いているが、もはや限界」「介護ロボットでセンサーコールが鳴っても、人手が足りず対応できない」などと述べ、「原発事故時など災害時の対応はとてできない」と訴え。要請は▽労働時間の上限規制や勤務間インター

バルの確保、夜勤回数の制限など実効性を確保するための財政支援▽一般病床よりも低い精神病床の人員配置基準の引き上げ▽患者、利用者の負担軽減―など6項目。健康福祉総務課の内部

民青県委 仲間増やしの目標達成へ 松江市内で県代表者会議

民青同盟島根県委員会 は4日、11月22日から始まる第48回全国大会に向け、松江市で県代表者会議を開きました。日本共産党島根県委員会の村穂江利子副委員長が来賓あいさつしました。会議では総選挙や食料支援、各班で学習に取り組んだことや今大会期の活動を振り返りながら全国大会決議案を討論。裏金問題をはじめとする自民党政治の行き詰まりや、岸田政権のもとですめられた敵基地攻撃能

宏課長、医療政策課の糸賀晴樹課長、高齢者福祉課の細田浩之課長、障がい福祉課の吉川雄二課長らが応対。「現場の実態を把握し、国に必要な対策を講じるよう要望していく」と答えました。

「裏金」2000万円 で 自民党大敗!!

スクープした しんぶん赤旗

ぜひご購読を

日刊紙 月3497円
日曜版 月990円
日刊電子版・日曜版
3週間無料お試し出来ます!

新しい国会でも 追及します!

日本共産党

物価高騰が続いているのに賃金や年金が上がらない。生活がどんどん苦しくなっているのに、軍事費



党県常任委員 亀谷 優子

ただけは湯水のように税金を使う。しかも、国民の生活苦を横目に自民党は裏金をつくり続ける―こんなにおかしい状態をなんとか変えたいという気持ちでたたかいました。選挙戦の最終盤で、しんぶん赤旗の新たなスクープ「裏金議員を裏公認」の

振り返れば、瞬く間に過ぎた12日間でした。自身自身が候補者という立場で、初めて経験した国政選挙



国民の声で動く政治をとみに! 村穂 江利子

選挙を通じて「裏金で動く政治ではなく、国民の声で動く政治を!」と呼びか

「大平さんにあわせる顔がありません。でもまた頑張るとの決意に励まされました。」(鳥取・Yさん)



元衆議院議員 大平 喜信

を贈ります。次の高みを目指して共に頑張りましょう」(広島・Mさん)

ニュースが飛び込んでくる。街頭から訴えていても手を振ってくださる方が格段に増え、自民党に対する怒りが噴出してきているように感じました。SNSで演説場所をお知らせすると、わざわざ足を運んでくださる方も。政治には一人一人の人生がかかっていることを痛感しました。引き続き、公約実現に向けて皆さんとともに進んでいきます。

そして、今、自民・公明の連立与党が衆院で過半数を割り、少数与党となった国会情勢は、これまでのような国民不在の暴走政治を許さないという、政治変革への扉を開きました。いよいよこれからが、立憲主義を取り戻し、国民の声で動く政治実現に向けて力を合わせる要の時。今後も公約実現に向けて頑張る決意です。

され胸を熱くしています。悔しい結果の中でも中国地方は健闘しました。◆22年参院選比で得票数では前進(全国で北陸信越と中国だけ)◆比例中国ブロックの順位は17位だが最下位当選者(10位)との票差は41648票。22年参院選は50665票、21年総選挙は52336票だったので、むしろ当選への距離を縮めたともいえる―など。中国地方のすべての仲間と切り開いた成果を確信に、次なるたたかいに歩みを開始します。